

みいけさるくコース 1 スタート

三池郷土館



昭和48年、三池小学校開学百年の記念事業として開館した。現在は閉鎖。東面には、三池藩陣屋敷の遺構が移築され残されている。階段左手には、兜石、虎石と呼ばれる大きな石がある。



歩いて学ぼう  三池の歴史

みいけさるくコース 2

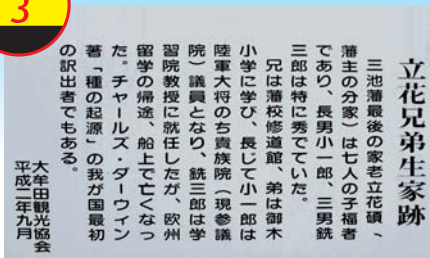
陣屋大手門跡



三池藩陣屋の大手門がここにあったが、石段だけが残っている。この石段は天草砥石で作られ、島原の乱には、ここで刀を磨いて出陣し凹凸になったので裏表ひっくり返して置き直してある。

みいけさるくコース 3

立花兄弟生家跡



三池藩最後の家老立花頼、藩主の分家一は七人の子福福であり、長男小一郎、三男統三郎は特に秀でていた。三郎は藩校修進館、弟は御木小学に学び、長じて小一郎は陸軍大将のち貴族院一現参議院議員となり、統三郎は学習院教授に就任したが、欧州留学の帰途、船上で亡くなった。チャールズ・ダーウィンの「種の起源」の我が国最初の訳出者でもある。

大牟田朝光協会
平成九年九月

小一郎は、日露戦争のポーツマス条約締結に、小村寿太郎全権大使に随行。大正10年には男爵の称号、退官後は政界に転じ、福岡市長や貴族院議員。統三郎は、ダーウィンの進化論を最初に翻訳した。その時の書名は「生物始源」。

みいけさるくコース 4

陣屋眼鏡橋



構築は、下手渡よりの半地復封で再び三池藩領となった嘉永から安政にかけての頃と推測される。石材は阿蘇溶結凝灰岩である櫟野石である。今も、陣屋周辺の人々にとって大切な橋である。

みいけさるくコース 5

三池新町 彌劔神社



三池新町の祇園さん。寛永17(1640)年に社殿が完成。三池藩主立花種恭公から下賜された「御前山」は健在で、彫刻は三池藩御用大工新村佐七の若き日の力作といわれている。

みいけさるくコース 6

三池藩大蛇山 三池新町彌劔神社



昇天龍や金の蹄を持った謎の動物や三池藩の家紋など見事な彫刻が施された山車(愛称御前山)は、1852年に三池藩主から下賜された。大蛇はメス大蛇で三角牙、頭のコブは一つとの伝説。色彩は鮮やかな緑色を基調としている。

みいけさるくコース 7

高田行宮跡



第十二代景行天皇の遺跡、行在所。熊襲征伐の後、高田行宮に滞在された時に970丈の櫛の木の倒木を見て、これは神の木だと云い、御木の国と名付けた。櫛の木は立っていれば、朝日の影は杵島を隠し、夕日の影は阿蘇を隠したという。

みいけさるくコース 8

内田別当家跡



内田別当家は、柳川藩領の町別当という長官職を代々務めた。幕末には大間村の庄屋も兼任。宿場町三池の本陣内田屋も経営。日本地図を作成した伊能忠敬は、文化9(1812)年に二度三池にきている。この時宿泊したのが内田別当家といわれている。

みいけさるくコース 9

三池本町 祇園宮(彌劔神社)



三池上町彌劔神社は、本町の祇園さんと言われる。祇園祭での山車は、上内立花内膳家から下賜されたと言われている。民俗行事として、火災除けの祈願に「水(白)かぶり」が成人の日に行われる。

みいけさるくコース 10

三池本町 祇園宮(大蛇山)



雲龍の彫刻と朱色に塗られた山車が特徴的な山車は、歴史の重みを感じさせる重厚な作りで、豪華絢爛です。伝統的な手法で作られる大蛇とこの山車との組み合わせは、一見の価値がある。

みいけさるくコース 11

劫月院跡



劫月院は、中世三池氏が檀越の禅宗(普化宗)寺院。江戸時代は九州虚無僧触頭と称し、虚無僧寺ともいった。天和3(1683)年に柳河に移され劫月院と改められた。石造遺物は市指定文化財の考古資料で、これらは、明正寺の六地藏幢と同じく仏師周養の作。

みいけさるくコース 12

大間神社(大間城跡)



大間城は正治2(1200)年に三池(三毛)摂津守師貞によって建立されたといわれている。大間城跡にあった三池館は平時の政務を執る居館であり、戦時は今山嶽(三池山)の山城に立て籠もって戦いました。

みいけさるくコース 13 ゴール

桜姫伝説



昔、大間に住んでいた長者が一人娘の桜姫を手放したくなくて、宮中からの使者に諭めさせるため、ツナシという魚を焼いて「娘は急に死んでしまい今火葬しています」と告げて帰ってもらった。この時からツナシのことをコノシロ(子の代)と呼ぶようになった。

みいけさるくコース

